

# そのとき、役に立つ知識

## 家族間の連絡方法 (安否確認)

- 地震直後には、あらかじめ家族内で決めておいた場所に集合し、安否を確認しましょう。
- 家族と連絡がとれずに自宅を離れるときは、行き先などを書いた連絡メモを残しましょう。

### 災害用伝言ダイヤル

- 震度6弱以上の地震が発生した場合などに、個人の安否確認手段として、「災害用伝言ダイヤル 171」をNTTが運用します。
- 「災害用伝言ダイヤル 171」は、伝言の録音および再生により、被災地内の家族との連絡を可能にするものです。この利用方法は、まず「171」をダイヤルし、音声のガイダンスにしたがって伝言の録音や再生を行います。事前の契約などは必要ありません。

災害用伝言ダイヤル 171

録音するときは  
171-1-06 [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] → 録音する

再生するときは  
171-2-06 [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] → 再生する

被災地内の自宅電話番号をダイヤルしてください

※録音時間は1伝言につき30秒です。※携帯電話からも利用できます。(一部事業者を除く)

### 公衆電話

- 災害発生時には、公衆電話は一般の回線よりつながりやすくなっています。公衆電話の設置場所を確認しておきましょう。

### 災害用伝言板サービス

- 震度6弱以上の地震などの大規模な災害が発生した場合、各携帯電話事業者が運用します。
- このサービスは、ご自身の安否情報などを登録することによって、その情報を全国どこからでも確認してもらうことができるものです。登録された安否情報などは、インターネットを通じて、パソコン、携帯電話から確認することができます。詳しくは各事業者のホームページをご覧ください。

### 大規模停電時など、関西電力の停電情報の取り方

- 関西電力送配電株式会社が配信する無料アプリでは、次のような機能があります。
- 関西エリアで停電が起こった際に、スマートフォンなどに情報が通知されます。(通知を受け取る地域を、最大10地域まで登録できます。)
- 関西エリア全域の停電情報が確認でき、復旧作業の進捗情報や復旧見込み時間が確認できます。

### 正確な情報の入手方法

- 地震が発生したときは、誤った情報や根拠のないデマが流れることがあります。これらに惑わされないように、正しい情報を入手して、落ち着いて行動しましょう。
- 信頼できる情報源としては、以下のものがあります。

#### ◆とよなか同報通信システム

市内61ヶ所に設置されている防災用スピーカーから音声で緊急情報等をお知らせします。(裏表紙に詳細)

#### ◆テレビ(NHKデジタル放送等)、ラジオ

被害状況や余震情報は、テレビやラジオを通して知ることができます。テレビやラジオの放送には常に注意を向けましょう。また、停電時は車のラジオを利用しましょう。

NHK放送画面→dボタン→防災・生活情報

#### ◆豊中・池田ケーブルネット

コミュニティチャンネル(11チャンネル)では、市と同局が必要に応じて、地域の緊急情報を放送します。

#### ◆豊中市ホームページ

<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/>  
災害情報などを知ることができます。

#### ◆おおさか防災ネット

あらかじめメールアドレスを登録された人を対象に、災害情報などが携帯メールに配信されます(携帯電話で受信可)。

#### ◆おおさか防災ネットのホームページ

<http://www.toyonaka.osaka-bousai.net>  
気象情報やライフライン情報、災害発生時の被害・避難情報など、幅広い防災情報が提供されています。

#### ◆広報車

豊中市の広報車が直接地域を巡回し、避難情報などをお知らせします。

#### ◆FM千里(83.7MHz)

必要に応じて災害情報を放送します。  
※FM千里の可聴域に限られます。

### 災害情報のメール配信

- 豊中市では、気象情報や地震情報、災害時の避難情報などの防災情報を市民のみなさんにメールでお知らせするサービスを実施しています。このサービスを受けるには、事前に携帯電話のメールアドレスを登録しておく必要があります。
- 登録は、携帯電話でtouroku@osaka-bousai.netにメールを送信。または、マーク読み取り機能のあるカメラ付き携帯電話は、右のマークを読み取り、同様に登録してください。

〈お問合せ〉危機管理課 ☎6858-2683

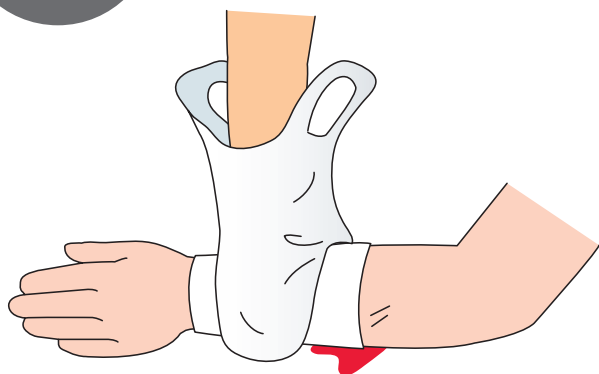


## 応急手当の方法

- 地震災害時のように同時に多数のけが人が発生した場合、救急隊による救援が望めない事態も考えられます。いざという時のために、応急手当の方法を習得しておきましょう。
- この他に、人工呼吸や胸骨圧迫が必要な場面に遭遇するかもしれません。消防局や日本赤十字社が開催する講習会などで心肺蘇生法を習得しておきましょう。

### 止血法

一般に体内の血液の30%を失うと生命に危険が及ぶと言われています。



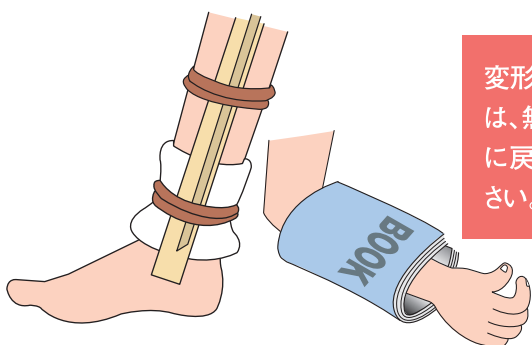
### 直接圧迫止血法

- 清潔なタオルかガーゼを傷口にあて、その上から直接手で圧迫します。
- できるだけ傷口を心臓より高くしておきましょう。

応急手当をする人はできるだけ手袋やビニール袋を使用し、血液に直接触れないようにしてください(感染予防)。

### 骨折

- 折れた部分に添え木をして、上下2関節を含めて固定します。
- 適当な添え木がなければ、板・傘・本などで代用しましょう。



変形している場合は、無理に元の形に戻さないでください。

### やけど



- できるだけ早く流水で冷やします。
- 刺激が強い場合は、洗面器などに水を溜めて部位を冷やします。

- 衣類を着ている場合には、脱がさずその上から冷やします。



- 広範囲をやけどした場合は、ホースなどで水をかけるか、シーツなどを水で浸して、やけどした部位にかけます。

長時間の冷却によって体温が低下しますので、広範囲のやけどでは10分以上の冷却は避けてください。